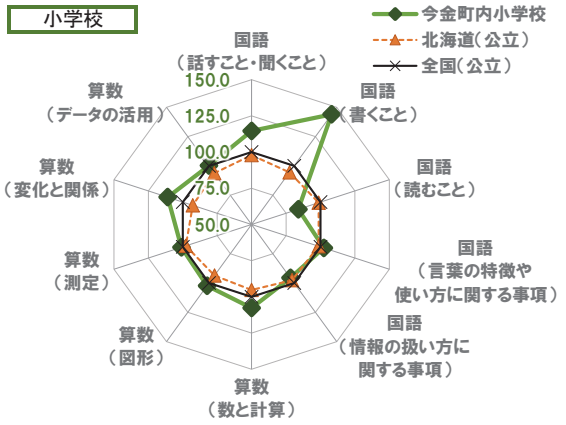
令和8年度全国学力・学習状況調査 今金町内の状況及び今後の改善方策

小学校数２校、児童数19人
中学校数１校、生徒数32人

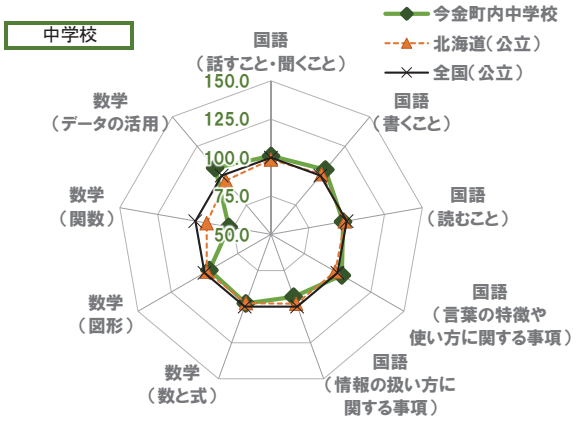
1.教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



中学校



○教科調査の結果からの分析

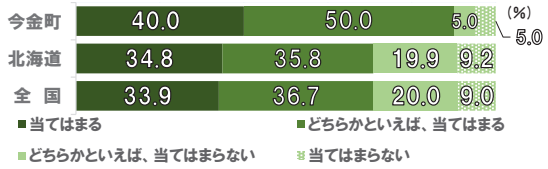
【小学校】平均正答率は、国語・算数ともに全国・全道を上回った。教科正答率は国語がほぼ65%、算数がほぼ60%である。
【中学校】平均正答率は、国語では全国・全道を上回り、数学では全国・全道をやや下回り、英語では全国・全道を下回った。教科正答率は、国語が65%、数学が60%をわずかに下回った。英語は40%を上回った。

- 教科の学習内容や項目ごとの結果についてはレーダーチャートデータに示されています。
- 中学校英語については出題された問題が全国悉皆ではないためレーダーチャート表示をしていません。

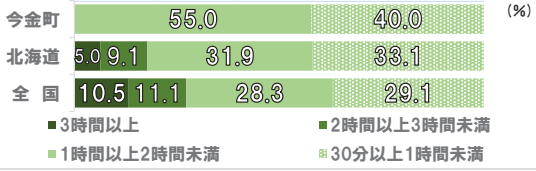
2.質問調査の状況

小学校

【児童質問】
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



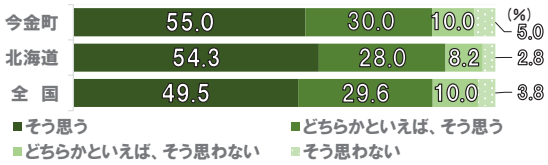
【児童質問】
平日、学校以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（塾、家庭教師、インターネットを活用しての学習時間も含む）



【学校質問】
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

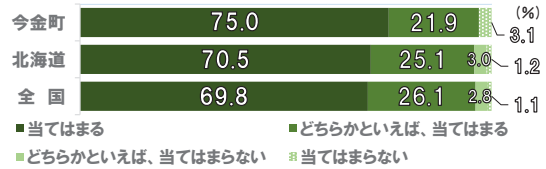


【児童質問】
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する事ができると思いますか

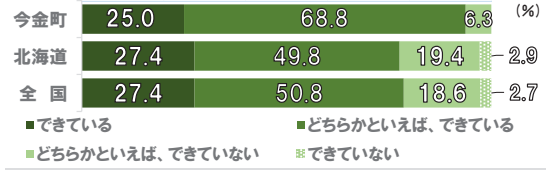


中学校

【生徒質問】
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



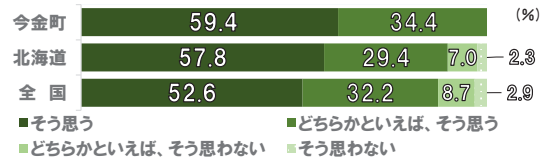
【生徒質問】
分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



【学校質問】
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



【生徒質問】
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する事ができると思いますか



○質問調査の結果からの分析

・今金町全体で取り組む「読書（INPUT)と作文(OUTPUT)の町プロジェクト」では、読書活動や書く活動、表現する活動を重視していることにより、全ての小学校、中学校で国語の平均正答率が全道・全国を上回る結果につながった。

・町全体で子ども同士の穏やかで建設的な人間関係、豊かな心を育む取組を行うことにより、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に90％の児童が肯定的な回答をしており、心理的安全性が担保された学校生活を送っていることがわかる。また、生徒質問では、「人の役に立つ人間になりたい」に95％超の生徒が肯定的な回答をしており、好ましい社会的貢献感が養われていることがわかる。これらのことから子どもたちは発達段階にあった人格形成にふさわしい環境の中で学校生活を送っていることがわかる。

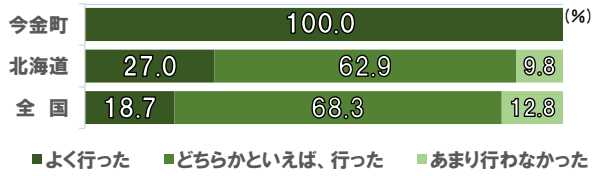
・学習活動について、児童質問で「平日の学校外での学習時間について」に、１時間以上と回答した55％を含め、30分以上に95％の児童が回答し、自主的な学びが浸透していることがわかる。また、生徒質問では「分からないことや詳しく知りたいことがあった時、自分で学び方を考え、工夫することができるか」に、肯定的な回答をした生徒が90％超で主体的な学習が浸透していることがわかる。

・一方、小学校国語【読むこと】の領域において全国・全道を下回っている状況は、学校の授業時間以外における児童の１日あたりの読書時間が30分以上である割合が、全国・全道を下回っていることが要因の一つとして考えられる。また、生徒質問では、「平日の学校外での学習時間１時間以下に60％超」、「休日の学校外での学習時間２時間以下に約80％」と生徒が回答し、生徒の学校外における自主的な学びが今後の課題として考えられる。

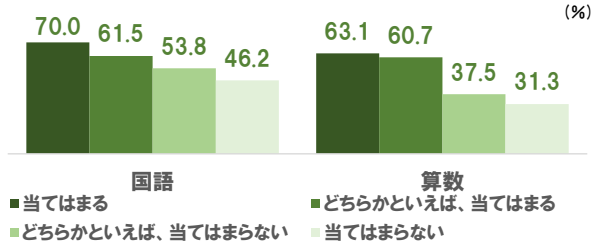
・小・中学校において、自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する事ができると思うと回答した児童生徒が全国及び全道を上回っている状況は、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日使用していることが要因の一つと考えられる。

小学校

【学校質問】
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

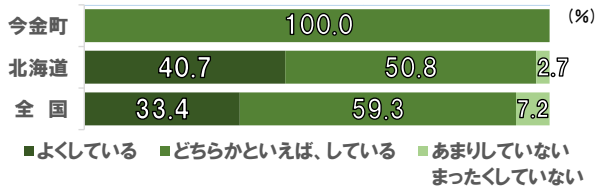


【クロス集計：各回答ごとの教科の正答率】
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

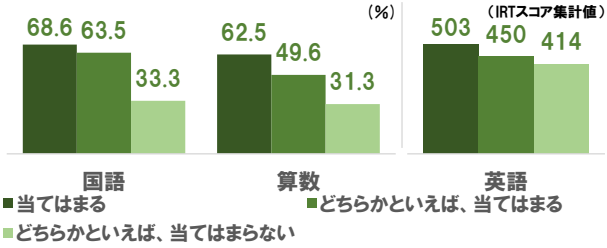


中学校

【学校質問】
調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか



【クロス集計：各回答ごとの教科の正答率】※英語はIRTスコア集計値
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



○質問調査と学力調査のクロス集計の結果からの分析

・小学校で「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けている」と回答した割合が全国・全道を上回った。このことは、児童質問での「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と回答した児童ほど、国語、算数の正答率が高い傾向が認められ、学校での取組の好事例として高く評価できる。

・中学校で「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして一人一人の生徒が意思決定できるような指導」を積極的に行っていると回答している割合が全国・全道を上回った。このことは、生徒質問で「学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」と回答した生徒ほど、国語、数学、英語の正答率が高い傾向が認められ、学校での取組の好事例として高く評価できる。

3.これからの今金町の学力向上対策

今金町では今後も学校と連携を密に図り、学力向上対策として次の取組を進めます

①「読書（input)と作文（output）のまち」を柱とした、学校・家庭・地域（団体）・行政が一体となった教育施策の推進
②学校や家庭での積極的なICT機器活用による学習活動・教育活動の推進
③小学校での専科教員の活用や算数・数学の習熟度別指導など、指導形態の工夫により個別最適で主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりの推進